

## 「とこワク」に期待

コロナ禍で注目される「ワーケーション」。アメリカで生まれた働き方で、「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」を組み合わせた造語だ。テレワークを活用し、観光地をはじめ、普段の職場とは異なる場所で休暇を取りつつ働くこととされる。都市居住者が地方などに来訪し滞在することで、旅行需要の創出や関係人口の増加など地方活性化につながる動きとして、国や地方自治体の期待を集めている。

県は昨年、有識者や市町・事業者等が参加するみえモデルワーケーション研究会を立ち上げた。半年以上に及ぶ議論を重ね、2022年2月に三重におけるワーケーション推進に向けた提言を発表。その中で、今後県が取り組むべきワーケーションを「とこわか（常若）ワーケーション」（通称「とこワク」）と命名し、めざす社会像や推進のための課題と取組提案などを示した。

「とこワク」では、ワーケーションにおける「ワーク」をデスクワークなどの仕事に限定しない、個人や企業などによる価値創造活動と定義し、ワーケーションを「ワーク」+「イノベーション」の合成語としたことに特徴がある。

ワーケーションとは、個人が生き生きと能力を発揮するための新しい価値観や、社会転換をもたらす「仕掛け」と捉えている。また、このようなワーケーションを実践していくために、ワーケーションに関わる全ての人や組織、地域で「とこワク」の考えを共有し、地域の現状などを踏まえ議論しながら共通認識を形成していく「共創の場」の必要性を指摘している。

「とこワク」をきっかけに、各地域で多種多様な議論や取り組みが展開され、今までにない新しい価値やスタイルが三重県から生まれることを期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 服部 諒）